

市区町村名	岡山県玉野市	担当部署	政策財政部総合政策課
		電話番号	(0863) 32-5507

1 取組事例名

地域公共交通ネットワークの再構築による利用促進対策 ～シーバスの見直しとシータクの導入～

2 取組期間

平成 26 年度～（継続中）

3 取組概要

- ・「玉野市地域公共交通計画」（H24 年 3 月策定）に基づき、平成 15 年をピークに利用者数が減少していたコミュニティ交通の見直し、乗合タクシーの新規導入により地域公共交通ネットワークの再構築を行った。
- ・配車システムの導入、地域一体での利用促進、交通会議での不断の検証などにより利用者の定着・増加を実現した。

4 背景・目的

- ・市内のおよそ 1 割の住民が、バス停から 400m 圏外に居住しており、アンケート等でも「バス停までが遠く利用できない」「行きたい目的地までの路線がない」などの意見が挙がっていた。
- ・また、取組前の公共交通体系は、地域内移動、拠点間移動、広域移動の役割分担が明確でないため、移動ニーズに沿った利便性の高いサービスが提供されず、利用者の不満の原因となっていた。
- ・こうした課題に対応するため、公共交通の役割分担の明確化や、利用しやすい交通サービスの提供、交通不便地域の解消という取組方針のもと、コミュニティ交通体系の見直しを行った。

5 取組の具体的内容

- ・「玉野市地域公共交通計画」（H24 年 3 月策定）に基づき、平成 15 年をピークに利用者数が減少していたコミュニティバス（シーバス）の運行によるコミュニティ交通体系の見直しを行った。
- ・具体的には、市内の目的地となる主要な施設を交通結節点（総合保健福祉センター（すこやかセンター）、駅、都市公園（道の駅）等）として位置づけ、拠点間を結ぶ役割をコミュニティバスが担い、岡山市へ接続する広域移動は路線バス及び鉄道が担い、需要の低い地域や大型車両の運行が難しい地区も含めた地域内移動に対しては、デマンド型乗合タクシー（シータク）を導入することで、きめ細やかなサービスを実現した。
- ・H26 年 9 月から、シータク自動配車システムを導入し、予約や配車計画作成に要する時間を削減するとともに、トリップデータの分析・利活用、聴覚障がい者からの予約も可能になった。
- ・本市の唯一の離島である石島と本土との連絡について、島内最後の中学生の卒業を機にスクールボートを廃止して海上タクシーを導入した。シータク自動配車システムでも予約でき、陸上・海上交通間の乗継の円滑化も実現した。

シートク乗り場マップ 平成36年 7月1日改正

各エリア(1)～(3)を集合タクシー(シートク)が運行します。

② 荘内・八浜エリア

10分以内
 15分以内
 15分以内

③ 山田・東尾エリア

15分以内
 15分以内

④ 田井・中央(宇野・盛港)・玉
エリア

15分以内
 15分以内

① 玉野・和比・日比
エリア

10分以内
 15分以内



シートク料金: 1乗車200円

※10歳以上・16歳未満・高齢者・障害者等は
 乗車料金の半額(大人100円)
 ※16歳未満の小児(小学生)は大人1名につき1人まで
 乗車料金の半額(小学生以下は大人1名につき1人まで)

運行時刻表 (各エリア共通)

番号	予約時刻
799号	前日17:00まで
800号	前日17:00まで
900号	8:00まで
1000号	9:00まで
1100号	10:00まで
1200号	11:00まで
1300号	12:00まで
1400号	13:00まで
1500号	14:00まで
1600号	15:00まで
1700号	16:00まで

※毎日運行
 ※年末年始(12/29～1/3)は運休
 ※シートクは予約の必要です
 コールセンター
TEL:0863-31-1411
(予約受付時間 7:00～17:00)

- シーバスルート**
- 船尾乗換施設(シーバス⇔シートク)
 - シートク乗換施設(八浜⇔山田・東尾)
 - シートク乗り場
 - シートク乗り場(中心部主要施設)
 - バス停(路線バス含む)
 - エリア内のサブエリアの境界



【効果】 実証運行前後における全体的な利用者数の推移



※見直しにより乗り継ぎが必要な移動が生じているため、単純に延べ利用者数による比較はできない。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

・警察署等と連携した免許返納に伴う無料乗車券の配布、岡山大大学院と連携した乗継状況の調査、市内の高校と連携したシーバスの装飾、小学生向けのシーバス・電車の乗り方教室を実施するなどの様々な利用促進策を実施している。

7 取組の効果・費用

・実証運行前後における全体的な利用者数の推移が、108,255人（H25年度）から116,759人（H26年度）に増加した（見直しにより乗り継ぎが必要な移動が生じているため、単純に述べ利用者数による比較はできない）。

・外出する機会がほとんどない高齢者の割合が、H24年度：11.1%→H25年度：10.0%→H26年度：9.7%と改善した。

・公共交通による人口カバー率（平成22年国勢調査人口分布50mメッシュにバス停・乗合タクシー乗り場より400mバッファ圏内を設定した際の人口カバー率）が、旧シーバスでは91.3%で、新シーバスとシートクによる運行が、98.6%となり、7.3%上昇した。

・シートク自動配車システムの導入により、予約受付が5分から3分に、配車計画の作成が20分から5分になり、業務の効率化につながった。

・このような効果が見られる中、市補助金額が60,454千円（H23年度）から47,326千円（H25年度）に軽減された。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

・当該事業を進めるに当たっては、民業圧迫等の観点から事業者との調整が必須となるが、事業者や有識者で構成する地域公共交通会議に加え、タクシー事業者やコミュニティ交通運行事業者で構成する事業者会議も複数回行った。また、周辺自治体や先進自治体の視察に当たっては、事業者も同行し、自治体職員とは違った視点で視察してもらい、事業者の視点から見た新たな知恵が当該事業をより持続可能な制度とすることに繋がった。

9 今後の予定・構想

・本年度中に「公共施設等総合管理計画」を策定するなど、再編・統合を含めた市内の公共施設のあり方について検討することとしており、公共施設の再編・統合にあたっては、公共施設を結ぶコミュニティ交通にも連動するため、より持続可能な行政サービスが提供できるよう、効率性の観点から一体的に検討することとしている。

10 他団体へのアドバイス

・利用者アンケートや地域住民向け説明会（出前講座・地域懇談会）を行うなどニーズ把握や改善に不断に取り組み、これらに基づきシーバス・シートクの運行を継続的に見直すことで、より良い公共交通の実現が図られるものとする。

11 取組について記載したホームページ

・ http://www.city.tamano.lg.jp/bunya/kurashi_lifeguide_05/